

がん転移 体外観察技術を向上 大阪・彩都に拠点

米系アンチ
キサンサー

米系のバイオベンチャー オインキュベータ内に、アンチキサンサー研究所を開設した。蛍光 関から抗がん剤の評価をヤパン(大阪府茨木市、たんばくを使ってマウス 受託するほか、マウスも八木滋雄社長は三日、内のがん転移を体外から 販売する。大阪府北部の「彩都バイ 観察できる技術を開発し、 研究員は二人程度でス

ターゲット。当面は親会社の米アンチキサンサー(カ リフォルニア州、ロバート・M・ホフマン最高経 営責任者)が研究や受託を主導する。まず国内の顧客向けに技術の認知度を高め、徐々に研究と受託を実施していく。同社の蛍光たんばく質を入れたヒトのがん細胞をマウスに移植すると、蛍光を頼りにがん転移とがんの体積が体外から測定できる。二色を用い、がん細胞と体内組織の細胞がどう作用するかも調べられる。抗がん剤を投与すれば効果測定が可 能。研究では精度を高めたり、がん細胞以外への応用を模索する。米アンチキサンサーは一九八四年に設立。東京大学や大阪大学などと共同研究を実施し、塩野義製薬やエーザイなどと取引関係がある。〇六年十